



■ご挨拶「年頭にあたり」 JVCシニアクラブ 会長:菅沼 喜久次

会員の皆様明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いで、健やかに新年をお迎えのことと拝察し、心からお慶び申し上げます。

JVCシニアクラブは昨年10月に満15周年を迎え、記念事業として12月に「東京湾ヴァンテアンクルーズ」を開催いたしました。ご家族含めて37名の皆様にご参加いただき、にぎやかに15周年の祝いをすることができました。

これもひとえに会員皆様のご理解とご支援の賜物として感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみると、米国トランプ大統領の誕生で、自国ファースト主義が世界に広がり、国際間の緊張が大いに高まってしまいました。力対力の風潮も強まっています。

国内では昨年10月、少子化問題とともに国家間で高まる緊張を「国難」と位置づけて、総選挙が実施されましたが、結果はご承知の通り、民進党がほぼ解党状態となっしまい、野党陣営の自滅で現政権が支持されたかのようです。

しかし現在、景気回復・バブルの再燃などといわれていますが、多くの庶民はその恩恵に預かっている感じをまったく持っていません。

日本は世界でもトップクラスの長寿命を誇っていますが、今後更に増えていく高齢者にとって、生きがいのある社会が担保されていく必要があります。

そして、個人個人で見れば、自身が元気に活動できなければ意味がありません。

シニアクラブでは、健康寿命の延伸を唱え活動を続けてまいりました。本年も引き続き、これを主眼にして活動を進めてまいる所存です。仲間との交流を深めるとともに、相互に切磋琢磨しながら心身を鍛え、皆が楽しく参加できる機会を作ってまいりますので、会員各位のご理解とともに積極的なご参加・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

■トピックス：人生100年時代

昨年9月、政府は「人生100年時代構想推進室」を立ち上げました。そして12月までに4回の会議を持ち、年末には中間報告を発表しています。

この報告の冒頭、「ある海外の研究によると日本では、2007年に生まれた子供の半数以上が107歳より長く生きる」と書かれています。

そして、この100年という長い人生をより充実したものとするには、「生涯にわたる学習が重要であること、更にスポーツや文化芸術活動・地域コミュニティ活動などに積極的に関わることも個人の人生や社会を豊かにする。」と述べられています。

多くの高齢者を支えるとともに、国を将来的にも衰退させないために、少子化に歯止めをかけなければなりません。中間報告では、教育の無償化や子育て支援への対応がまず挙げられ、そして、介護人材の処遇改善も具体的に示されています。

財政面では、国として超高齢社会にかかるコストをどのように工面していくか、重要な課題となりますが、個人個人も長い老後の蓄えがどれだけあればいいのか、真剣に考えなければなりません。国がどこまでやってくれるのか、個人がどれだけやらなければならないのか、今後の推移を見守っていく必要があります。



産経新聞特集のロゴ

■事務局から

1) ヴァンテアン・クルーズ報告

巻頭のご挨拶にも記したとおり、昨年12月8日(金)にシニアクラブ15周年を記念する第1弾の行事として、37名の参加を得て「ヴァンテアン・クルーズ」を実施いたしました。



キャビンの中ではハイムードの映像と音楽が流れ、最後にはハワイ語で「バラが咲いた」を皆で歌いました。といっても、文字に追いつけなかったと思いますが・・・。

2) 15周年記念事業 第2弾 「スパリゾート・ハワイアンズ」 宿泊旅行

案内を同封してありますのでご覧ください。是非多くの方々のご参加をお待ちしております。

3) 本部事務局の移転

昭和43年以来、長らく労組本部が使用してきた会社施設の勤労会館が老朽化に伴い閉鎖され、この土地は京急バス会社に売却されました。

新しい労組事務局はJVCケンウッド本社ビルの10階に移動し、シニアクラブの事務局所在地もここになります。ただし、住所、電話番号は今までと変わりません。



【勤労会館全景】

1月6日(土)に、勤労会館においてささやかなお別れ会を開催して名残りを惜しみました。

事務局長 田代 周